

## 伊方町で発見された愛媛県内最古の遍路日記

高嶋賢二（伊方町・町見郷土館学芸員）／岡本佑弥（徳島城博物館学芸員）／胡光（愛媛大学教授）

**The oldest Shikoku pilgrimage diary of Ehime prefecture discovered in Ikata-cho.**

**Kenji TAKASHIMA,Culator,Machimi Museum**

**Yuya OKAMOTO,Culator,Tokushima City Tokushima Castle Museum**

**Hikaru EBESU, Professor,Faculty o Law and Letters,Ehime University**

### 1 佐田岬半島と町見郷土館

愛媛県西宇和郡伊方町は、四国の最西端—「日本一細長い半島」佐田岬半島に位置している。九州に向かつてまっすぐ伸びた地形は、長さ約40キロ、九州までは約13キロ。鳥や昆虫たちの渡りの回廊としても知られ、希少な植物なども自生するなど豊かな自然環境に恵まれている。特異な地形で入り江ごとに形成された集落は40以上にのぼり、それぞれに独自の民俗文化を育んでいる。四国と九州、瀬戸内海と外海を結ぶ境界地帯で、西日本各地の石材からなる五輪塔が町内に点在するなど、さまざまな人の往来を示す歴史の痕跡が見られる。四国遍路に関しては、札所こそ存在しないが、宇和島藩が明和6年（1769）に出した法令で、「三机は向地より渡口」と、町内の三机地区の港を、向地（九州方面）から来る遍路の受け入れ口に定める（内田九州男「近世における四国諸藩の遍路統制」）など、海を介した遍路の往来を考える上でも興味深い地域といえる。

町見郷土館は、旧伊方町立町見中学校の校舎を再利用して、平成11年に開館した伊方町立の博物館。平成17年に現在の伊方町が発足して以降は、町域となる佐田岬半島全体をカバーできるよう奔走している。民俗資料のほかこの地域の歴史資料も出来る限り収集保存し、佐田岬半島に関するさまざまな調査研究に努めている。特徴的な活動としては、市民サポーター「佐田岬みつけ隊」の存在がある。展示だけでなく収集保存や調査研究といった博物館の活動も可能な範囲で学芸員と協働でおこない、さまざまな博物館活動を通じて地域を深く知り、楽しみ、誇れる仲間を増やしつつある。また当時の町見中学校の教室が復元された部屋には、最後の卒業生らが寄せ書きした黒板を遺し、卒業生らが訪れて懐かしむ場となっているほか、スライド上映会などの催事にも利用されている。（高嶋賢二）



図1 佐田岬半島（伊方町提供）



図2 町見郷土館（伊方町提供）

### 2 共同研究と遍路日記の発見

伊方町・町見郷土館と当センターは、共同研究を継続しており、これまで町見郷土館が保管する旧役場文書・三崎八幡神社文書・金胎廃寺文書などの調査を行った。

宇和島藩領三崎浦にあった金胎寺（真言宗醍醐派）は、江戸時代前期（17世紀）に開山した修驗道寺院である。伝来する文書によれば、江戸時代には佐田岬半島の人々の病を癒やし、家内安全を祈っていたことが分かる。修驗道は、明治維新で禁止されるが、その後も出兵兵士の安全祈祷を行っており、半島の人々の

篤い信仰を集めていた。戦後、廃寺となる。

同寺の文書から、平成25年に愛媛県内最古の遍路日記を発見した。虫損が激しく、開不能だったため、科学研究費を用いて専門的な修復を行った。その後解読を行い、平成30年8月1日から同31年1月22日まで愛媛大学ミュージアムにおいて一般公開を行った。平成30年10月16日付『愛媛新聞』では、愛媛県最古の遍路日記として大きく報道された。本史料は、宝暦7年（1757）に同寺の吉雲法印が記した『四國遍路記』で、三崎浦から川之浜浦、伊方浦を経て、岩屋寺から道後へ、讃岐・阿波・土佐を巡り、明石寺まで戻る内容であり、妻の三回忌を機に遍路へ出た可能性も判明した。大窪寺から阿波へは、吉野川上流へ抜けて、下流へ向かっている。四国で二番目に古い記録ながら、修験者の日記としては、唯一のものであり、四国遍路の形成過程を知る上でも重要である。

現在、四国で最も古い遍路日記は、讃岐国丸亀藩領井関村庄屋佐伯家に伝わる延享4年（1747）佐伯藤兵衛「四国辺路中万覚日記」（香川県立ミュージアム所蔵）である。本史料とほぼ同時期の日記であり、行程の多くも一致する点が見られる。内容を比較することで江戸時代中期の四国遍路の実態を知るだけでなく、虫損の多い本史料の内容を補足することもできる。なお、佐伯家の遍路日記は、『香川県史』9近世資料I（香川県、1987年）、小野祐平「資料紹介四国遍路道中日記」（『ミュージアム調査研究報告』香川県立ミュージアム、2015年）に全文掲載されている。

四国遍路に関わる史料集としては『四国遍路記集』（伊予史談会、1981年）が知られる。同書には、代表的な案内記とともに、寛永15年（1638）賢明「空性法親王四国礼場御巡行記」、承応2年（1653）澄禪「四國遍路日記」が収録されている。前者は大覚寺宮空性法親王の巡行の途を命により大宝寺の賢明が記したもので、四国霊場を中心に名所旧跡が紹介され、成立の経緯や記述の点でも日記や紀行文の体裁をとっておらず、内容的にはむしろ案内記に近いものの、道程は不明である。そういう意味では、最古の遍路日記は澄禪「四国遍路日記（原文は辺路）」（宮城県塩釜神社所蔵）と言える。この澄禪日記や、同史料集に収録された、最初に刊行された案内記である貞享4年（1687）真念『四国遍路道指南（原文は辺路）』と本史料や佐伯藤兵衛日記をあわせて検討することで、四国遍路が隆盛してくる江戸時代前期から中期にかけての状況が明らかになってくるだろう。（胡光）



図3 遍路日記修理前の状態

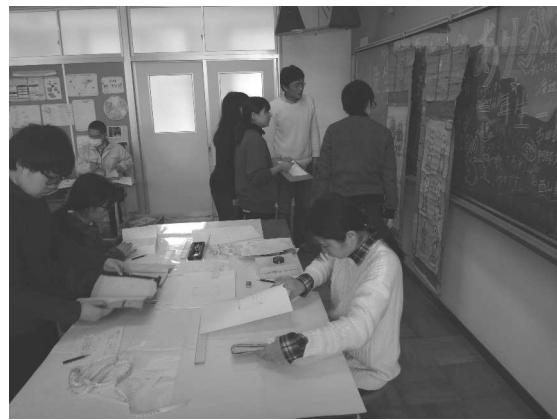


図4 町見郷土館での調査風景

### 3 三崎金胎寺四國遍路記

次に、2段組みの体裁で、当該遍路日記を原文の改行のままで、全文紹介する。

（表紙）「宝暦七丁丑年 三崎浦

四國遍路記

當山末流修驗吉雲法印

二月吉 日 泰法院」

宝暦七丁丑二月九日立、

同行、泰法院〔 〕行

〔 〕十郎

宿附

二月九日 宿 川ヶ濱浦

市左衛門

同 十日 昼 伊方浦

酒屋

宿 [ ] 口兵衛

同□□日 宿 □□院

同 昼 大瀬村

正[專]院

[ ]宿 □□仲 [ ]

[岩]屋寺 □ [ ]

同 [ ]

□ [ ]	[ ]
[ ]	□□ □□
同十四日 昼 恵十[郎]	□尾[寺] □正觀 大窪[ ]
道後	[補陀] 落山觀音院 □□
同 宿 六右衛門	阿州分
同十五日 □□	閏三月一日納、[得度山][ ]
道後□□□ 和氣濱	[切] 幡寺 [ ]
佐[吉]□	正覺山
□十六日 宿 □□□村	[法] 輸寺 [ ] 积迦如來
源□	[ ]
[ ]	[ ]
[ ]	[ ] 如來[ ] □□ [ ]
□十八日 [ ]	溫泉山
□	□□□ □□ [ ]
□□□□[ ]	[ ] □□□□□□ [ ]
[ ] 村□、□□□□	[ ]
[ ]	[ ]
[ ]	[ ] □□□ [遍] 照院
[ ] □□□	大日[ ]
[ ]	[ ] □正積□阿彌陀[ ]
[ ] □寺	三月二日 [日] 照山[ ]
□通□ 道後方	□□陀藥師觀音 [ ]
奥院へ 九日半ニ [ ]	□□ 笠和山一乘院[ ]
二月廿三日	同日 [ ] 靈山寺
雲邊寺 宿 [ ]	[ ] 真福院
[ ]	[ ] □□□
[ ]	[ ]
[ ]	[ ]
[ ] □□ [ ] □□ [ ]	[ ] □□千手觀音
[ ] □□ [ ]	[金] 剛山
[弥] 谷寺□	[ ] □□ [ ]
[ ] □□ [ ]	[ ] 灌頂
□□寺 [ ]	[ ] □□□ [ ]
吾(ママ)岳山善通寺 誕生院	[ ]
同廿五日 宿、木[ ]	藤井寺
重右衛門	未二月廿日ニ鶴[林寺][ ]
□□□□□ □□□	□月四日納、□□ [ ] 八丁
金倉寺 道隆[ ]	□尊虛空藏□□
[ ]	[ ] □ 燒山寺
[ ]	[ ]
[ ] □綾松山洞林院 [白峯寺]	[ ]
[ ] □ 正觀 [ ] 宮	[ ]
[ ] 廿七日着ク、[仏生]山町[ ]	[ ] □□
宿[ ]	[ ][积迦如來] □□山[金色]院
[ ] 南面山千光院[屋島寺][ ]	[ ] <藥師> <和口山> 国分寺
[ ]	□□逗日數十五 宿觀音寺坂
[ ]	□□村、是迄同行 □□□七□□□

徳島町米屋惣□□	一、本尊薬師	高福□
□□□□□	東むろと村	
[ ]	[ ]	市之丞
[ ] 薬師□□ 恩山寺	[ ] 朱雀院	
□ 橋池山[摩]尼院	[ ] 種間寺	
□尊地蔵□ 立江寺	醫王山鏡智院	
[胎]蔵寺		
宿、横瀬村 黒右衛門		
三月六日、拝札納、	一、本尊薬師	[ ]
[ ] 奥院 穴ぜんぢや[う]	同日納 獨[ ]院	
[ ] □□	一、本尊[ ] 青[龍寺]	
本尊地蔵尊[ ] □ [ ]	[ ] □□□□	
二月〈廿四日〉卅日、	□□□	
宿、大井村 松右衛門子息、	□十六日	□□田
此所、二宿雨ふり逗留、尚之介		宿 万左衛門
[ ] 舎心山常住院	三月十七納	
□□虛空藏菩薩 太龍寺留	佐賀村	
同日納 白水山醫王院	長七	
本尊薬師 [ ]	[ ] 村	
[ ]	□明日納	
[ ] 村 十郎兵衛	[ ] 補陀洛院金剛福寺	
同九日納、[ ] 無量寿院	[ ] 宿 真念寺	
本尊千手觀音 薬王寺	赤木山	
宿 麦浦 末□□	□□薬師 延光寺	
与七右衛門	宿小山 [ ]	
三月十□日 曾根村□	廿一日納 [ ]	
三郎□□	観自在寺	
[ ] 納	□□ 篠山觀世□□	
[ ] □□村	宿 寺	
□□[ ] [ ] 作	廿二日 宇和鳴城下[味]増屋	
一、津寺	宿 長七	
[十]二日納	廿三日[納]	
本[ ] 西寺	一、稻[荷][ ] □光寺	
[ ] □□□ 神峯寺	同日 一顆山毘盧舍[ ]	
かうの村	[本]尊大日 佛木寺	
宿 [ ]	[ ] 源光山円手院	
同十三日納	明石寺	
一、□ [ ] 高照院大日寺	[ ]廿三日納	
[ ] □	宿 [明石寺]	
□尊千手觀音 国[ ]	□霞院	
一、本尊阿弥陀 神宮寺	(解説:岡本佑弥、校正:胡光)	
宿 一の宮村 (幸)三助		
□四日納 五臺山金色院		
□尊□□□□ 竹林寺		
[ ] 持院		
一、本[ ] 禅□□□		
同日[ ]但[ ]		

